

使用後の手入れと保管

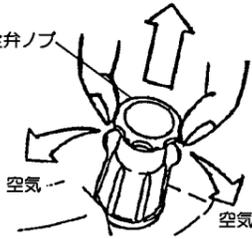
①作業が終わったら

- 安全弁ノブを上引張り「シュー」という音がなくなるまで空気を逃がし圧力を抜きます。
- タンク内を十分に洗浄し、更に清水を入れ1分間以上噴霧しタンク内の水を払ってください。

⚠ ※薬液や空気が噴き出す恐れがありますので、ポンプや接続部を外す前に安全弁ノブを引張りタンク～レバーコックの圧力を抜いてください。

⚠ ※余った薬液及び機械の洗浄水は、河川、水源池、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。

⚠ ※前回使用した薬液がタンク、ホース、ノズル等の内部に残っていると薬害を起こす危険性があります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は、残っている薬液を十分に洗い流してください。



②保管

⚠ **保管は屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所にしてください。**

※プラスチック部品は、直射日光に長期間さらされると、著しく強度が低下する場合があります。また注意表示ラベルも変色したり、はげやすくなりますので保管には充分注意してください。
 ※薬液タンクは紫外線により劣化が進みますので、使用開始後4年をめぐりに新品と交換してください。

故障と修理方法

内容	原因	処置
ポンプの動きが悪い	●ピストンOリング ㉔ の油切れ 	○注油する ※Oリングの取り出し方法 ポンプ部を取り外し、ハンドルのロックを外します。ハンドルを引き上げ左図のようにストップリングを回し、ストップリングを持ち上げ、Oリングを取り出します。取り付けは逆の手順で行ってください。
ハンドル操作が重い、またはハンドルが押し戻される	●エア流入弁 ㉓ のゴミ詰まり、または劣化、老化	○掃除する、または新品と交換する
圧力が上がらないまたは空気の漏れる音がする	●ネジ部より空気が漏れる ●Oリング ㉔ の油切れまたは劣化、老化 ●Oリング ㉓ の油切れまたは劣化、老化	○各ネジ部を締め付ける ○注油する、または新品と交換する ○注油する、または新品と交換する
液の出が悪いまたは噴霧状態が悪い	●加圧不足 ●ネジ部より空気が漏れる ●レバーコックストレーナのゴミ詰まり ●ノズルキャップへのゴミの付着	○加圧する ○各ネジ部を締め付ける ○掃除する ○掃除する
液が止まらない	●レバーコック ㉑ のゴミ詰まり	○掃除する
レバーコック握り部より液が漏れる	●コック取付ナットのゆるみ	○レバーコックニギリのネジをゆるめて外し、コック取付ナットを増し締めする

⚠ 修理を行う場合は、事前に安全弁ノブを上引張りタンク内の圧力を抜いてください。また、ノズルキャップの掃除を行う際は顔面に薬液がかかる恐れがありますので必ずレバーコックを停止の状態としてから行ってください。

※Oリングを交換する際は、必ずOリング全面に注油してください。
 ※注油にはエンジン油、またはギヤ油を使用してください。
 ※上記処置を行っても直らない場合、または上記以外の症状の場合は販売店にご相談ください。

仕様

型式	4 ℓタイプ		6 ℓタイプ	
	HPS-3040 (4 RS)	HPS-3140 (4 RD)	HPS-3060 (6 RS)	HPS-3160 (6 RD)
本体寸法	450×190mm (高さ×タンク直径)		550×190mm (高さ×タンク直径)	
最大液容量	4 ℓ		6 ℓ	
タンク容量	6.3 ℓ		8.7 ℓ	
ノズル長さ (4 RD、6 RDは伸縮タイプ)	465mm	520～1,300mm (縮長～伸長)	465mm	680～1,780mm (縮長～伸長)
安全弁設定圧力	0.4MPa			
吐出ホース長さ	2.1m			
主要部材質	タンク：高密度ポリエチレン ポンプ部：ポリプロピレン その他：ポリプロピレン、ポリアセタール、ステンレス、アルミニウム、黄銅			

蓄圧式噴霧機 共通取扱説明書

適用機種
 4 RS : HPS-3040
 4 RD : HPS-3140
 6 RS : HPS-3060
 6 RD : HPS-3160

ASB 株式会社 麻場
 〒381-8530 長野県長野市北長池 1443-2
 ☎026(244)1317 (代)
 URL : http://www.asaba-mfg.co.jp

このたびは本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書には安全に使用していただくための要点を記してありますので、ご使用前に必ずよくお読みになり正しくご使用ください。お読みになった後は、いつでも読める場所に保管してください。また、本書を汚損したり紛失した場合はお買い上げの販売店にご注文いただき大切に保管してください。

本書に記載した ⚠ の表示のある注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり必ずお守りください。なお、⚠ の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店にご注文いただき必ず所定の位置にお貼りください。

用途

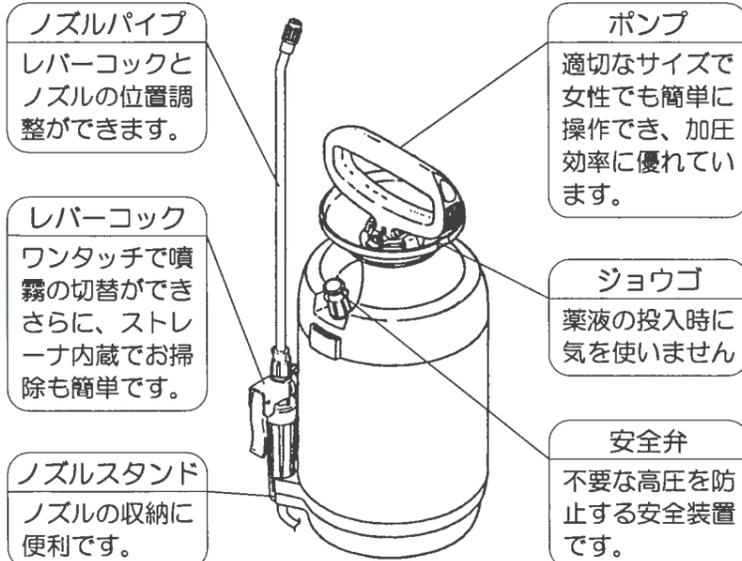
- 庭木の殺虫・消毒に
- 園芸用・観賞用植物への散水、殺虫、殺菌剤の散布に
- 野菜、果実、草花等へのホルモン剤の散布に

安全のために必ずお守りください

作業の前に	農薬の取り扱い
<ul style="list-style-type: none"> ・次に該当する方は、この製品を使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> ・酒気をおびた者 ・過労、病気、薬物（農薬を含む）の影響その他の理由により、正常な防除作業ができない者 ・妊娠中の者 ・満15歳未満の者 ・負傷中の者、生理中の女性等農薬による影響を受けやすい者 ・作業前に各ネジ部にゆるみがないこと、ホース、肩掛バンドに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常のないことを確認してください。 ・安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。 ・この製品を他人に貸与または譲渡する場合は必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。 ・噴霧機を持ち運びする際は必ずハンドルとポンプがロックされていることを確認してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防除、除草用の農園芸用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。（ハエや蚊等の殺虫剤、下水道の消毒剤等の環境衛生用の薬品は使用できません。） ・やけど、火災の恐れがありますので強酸性の薬品・塗料・シンナー・ガソリン・灯油・ベンジン等は絶対に使用しないでください。 ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。 ・安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないでください。 ・農薬は必ず専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器とは一緒に保管しないでください。 ・誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないでください。 ・農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い、薬品メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。空容器を洗った水は薬害のない方法で処分してください。

作業中	作業後と保管
<ul style="list-style-type: none"> ・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。 ・水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。 ・作業中、作業後にめまい、頭痛を生じ、または気分が少しでも悪くなった場合は、直ちに作業を中止し、医師の診察を受けてください。 ・安全弁が作動したら加圧を中止してください。 ・加圧した状態で長時間放置しないでください。 ・ハウス内では換気を行いながら作業してください。 ・作業中にノズル部を清掃する場合は、顔面等に薬液がかかる恐れがありますので、必ずレバーコックを停止状態としてから行ってください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タンク～レバーコックが加圧された状態でポンプや接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがあります。ポンプや接続部を外す前に安全弁ノブを引張りタンク～レバーコックの圧力を抜いてください。 ・作業後は手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに目の水洗いとうがいをしてください。また、作業期間中は衣服を毎日取り替えてください。 ・余った薬液及び機械の洗浄水は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。 ・使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。 ・前回使用した薬液がタンク、ホース、ノズル等の内部に残っていると薬害を起こす危険性があります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は、残っている薬液を十分に洗い流してください。

各部の名称と特徴



安全作業の服装

・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。



使用方法

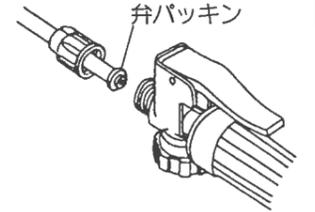
① 部品の取付

分解図を参照してノズルパイプをレバーコックのオネジにしっかりとねじ込みます。(弁パッキンがノズルパイプに取り付けられていることを確認してください。)

⚠️※作業前に接続部のパッキンに脱落のないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホース、肩掛バンドに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常のないことを確認してください。

⚠️※安全性を損なう恐れがありますので、付属のホース、コック、ノズルパイプ、ノズルは他の用途(動力噴霧機での使用、コンプレッサでの使用等)には使用しないでください。

⚠️※破損の恐れがありますのでホースを、無理にねじったり、引っ張ったり、曲げたりしないでください。



② 薬液の入れ方

1. ハンドルをポンプにロックし、ショウゴとハンドルのあいだに指をはさまないように注意しながら、回してポンプを取り外します。

⚠️※薬液を入れる前にコックは必ず停止の状態にしてください。

2. 調合した薬液をタンクに入れます。

⚠️※薬液は他の容器で調合してください。

⚠️※安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないでください。

⚠️※薬液は最大目盛り以上入れないでください。

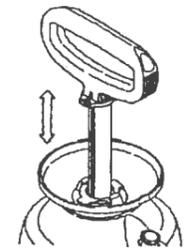
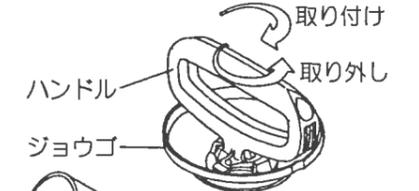
最大液量目盛り ● 4ℓタイプは 4ℓまで

● 6ℓタイプは 6ℓまで

3. ポンプを回して取り付けます。

⚠️※薬液を入れたら、すぐにポンプを取り付けてください。

・ポンプは空気が漏れないよう充分締め付けてください。



③ 加圧します

ハンドルを上下させ加圧します。

⚠️※加圧は安全弁が作動するまで行う必要は有りません。

	液量 1ℓ	2ℓ	3ℓ	4ℓ	作業中の追加加圧
4ℓタイプ	60回	50回	40回	30回	20回
6ℓタイプ	液量 1~3ℓ	4~5ℓ	6ℓ	作業中の追加加圧	
	70回	50回	40回	30回	

⚠️※0.4MPaまで加圧しますと自動的に安全弁が作動しますので加圧を中止してください。

④ 噴霧します

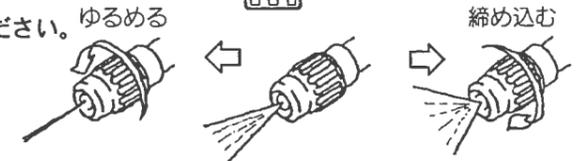
1. レバーコックの操作

- Aの位置が停止です。
- Bの位置にすると噴霧し、レバーを放すとAの位置に戻り、噴霧は停止します。(断続噴霧)
- Cの位置で連続して噴霧します。(連続噴霧)

⚠️※噴霧作業中以外はレバーコックを停止の状態にしてください。

2. 噴霧の調節

ノズルキャップを締め込むと細かい霧で広い角度に散布し、ゆるめると荒い霧で直射状に遠くまで散布できます。



3. 伸縮ノズルの長さの調節(4RD、6RDのみの機能)

レバーコックを停止の状態とし、アジャストナットをゆるめ、必要な長さに調節します。調節が終わったら、アジャストナットを締め込み、長さを固定します。



⚠️※レバーコックを吐出の状態にするときは周囲の状況を充分確認してください。

作業中以外はレバーコックを停止の状態にしてください。

⚠️※作業中にめまい、頭痛を生じ、または気分が少しでも悪くなった場合には直ちに作業を中止し、医師の診察を受けてください。

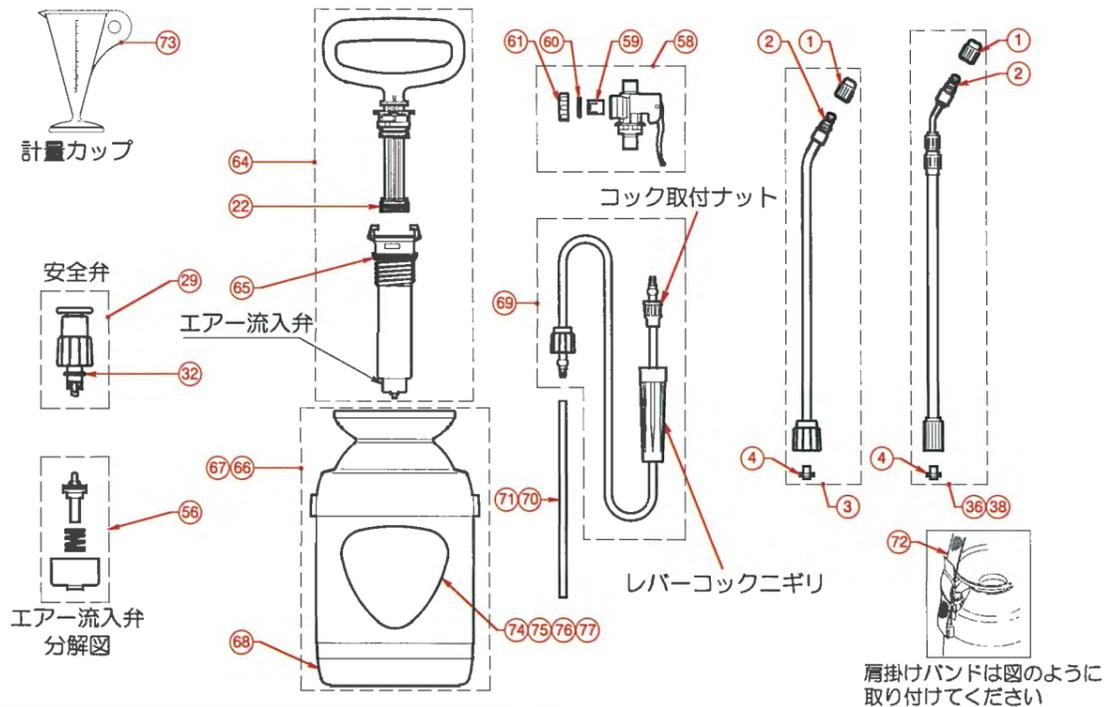
⚠️※タンク~レバーコックが加圧された状態で接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがあります。接続部を外す前に安全弁ノブを引っ張りタンク~レバーコックの圧力を抜いてください。

⚠️※コックを停止の状態が必要以上に加圧しないでください。

⚠️※加圧した状態で長時間放置しないでください。

⚠️※ハウス内では換気を行いながら作業してください。

分解図



蓄圧式噴霧機用部品 (標準付属品: 弁パッキン、OリングP-29、取扱説明書(各1))

記号	名称	記号	名称	記号	名称
1	ノズルキャップ	59	レバーコックストレーナ	72	肩掛バンド
2	OリングP-6	60	OリングJASO2017	73	計量カップ
3	スタンダードノズルー式	61	レバーコックキャップ	74	4RSネーム・注意ラベル
4	弁パッキン	64	ポンプ式	75	4RDネーム・注意ラベル
22	OリングP-29	65	OリングAS568-326	76	6RSネーム・注意ラベル
29	安全弁一式	66	4ℓ用タンク式	77	6RDネーム・注意ラベル
32	OリングP-9	67	6ℓ用タンク式		
36	4ℓ用伸縮ノズルー式	68	スカート		
38	6ℓ用伸縮ノズルー式	69	吐出ホース式		
56	エア-流入弁一式	70	4ℓ用吸水ホース		
58	レバーコック式	71	6ℓ用吸水ホース		

※注意表示ラベルが見つらなくなったり、はげたりした場合は必ず新品と交換してください。